

自治体職員がシンガポール・インドネシアの視察ミッションを実施 ～ 11 日間にわたる地域間交流促進プログラム～

シンガポール事務所

1. 日本から注目を集める 2 カ国を訪問

クレアシンガポール事務所では、全国市町村国際文化研修所等との共催で、2012 年 11 月 14 日（水）から 11 月 24 日（土）まで、シンガポール・インドネシアへの視察ミッション「地域間交流促進プログラム」を実施しました。

この事業は、日本の地方自治体職員等を海外に派遣し、政府機関・企業等の訪問や市民との交流などを通じて、両国間の政治経済・文化交流等における現状と課題の理解を図り、今後の地域間交流の契機とすることなどを目的として、2007 年度から開催しています。

今回は、先進的な施策の数々で日本の地方自治体からの注目を集める都市国家シンガポールと、日系企業の進出が加速するなど経済成長著しいインドネシアを訪問しました。今般、本プログラムの報告書を発行するにあたり、以下に概要を紹介します。

2. 施策アイデアの宝庫 ～シンガポール～

面積 740 km²と東京 23 区程の国土に、福岡県と同程度の人口約 530 万人が住むシンガポールの国家システムは、日本の自治体の施策に参考となる点も多く、ここ最近の自治体からの年間訪問者数は、シンガポール事務所へ支援依頼があったものだけでも、年間で 100 件近くを数えます。今回は、シンガポールの経済政策、年間 1,300 万人を集める観光客の誘致施策、空港・港湾など戦略的なインフラ開発や世界をリードする水政策など、日本のみならず世界中から注目を集める各施策のエッセンスを凝縮したプログラム構成としました。



シンガポールシティギャラリーの視察

また、クレアならではの幅広い現地ネットワークを活かし、参加者のニーズに応じたテーマ別プログラムを設定し、行程中の 1 日は、それぞれ「観光戦略と海外販路開拓」、「都市インフラと国家戦略」に分かれて視察や訪問を行いました。

現地では、政府各機関への訪問・視察のほか、当地に駐在員事務所を設置する自治体関係者から県産品の販路拡大などに向けた活動の聞き取り、シンガポール人の経済専門家からの“日本の地域経済活性化の可能性”等に関する講義、シンガポール国立大学の日本研究学科の教授との交流会の実施など、海外研修ならではの要素が満載のプログラムとなりました。

3. ASEAN 成長の象徴 ～インドネシア～

約 2 億 4,000 万の人口を抱える ASEAN の大国インドネシアは、ここ数年内需拡大による順調な経済成長を続け、一人あたり GDP は、車や生活家電などの普及が拡大されると言われる US3,500 に到達しました。若く、巨大な市場は世界から注目を集め、ここ 2、3 年は、ほぼ 1 日 1 社のペースで日系企業の進出が進んでいると言われています。



インドネシアの学生との交流会の様子

今回は、注目を集めるインドネシアの動向を、経済、地方行政、文化・人的交流といった幅広い観点から学ぶ機会を得ました。

経済分野では、ジャカルタ東部の工業団地や日系企業視察、インドネシア投資の総合窓口である投資調整庁への訪問等を行い、最前線で活躍する人の声を聞くことができました。

一方、国家の急成長の背景で、インドネシアにおける地方行政も、住民福祉の向上や都市化に伴う各種問題への対応などに直面しています。こうした実情に対する理解を深めるため、地方分権について日本の成功から学びたいと語る内務省の局長とのディスカッションや、首都ジャカルタの渋滞抑制に向けた都市交通問題への取組現場の視察を行いました。

また、インドネシアは非常に親日的な国として知られており、高校の第二外国語として多くの若者が日本語を学習するなど、今後の地域間の人的交流や文化交流の発展も期待されます。交流プログラムでは、将来の両国の交流を担うであろう、日本語を学ぶインドネシアの学生と率直な意見を交わし、今後の草の根交流の可能性を探る良い機会となりました。

3. プログラムのハイライト

【シンガポール編】

(1) シンガポール概況 ～JETRO・JNTO 現地スタッフが語るシンガポール～

- ・シンガポール経済を牽引する2つのエンジンと「Host to Home」政策とは？
- ・東南アジアからの誘客を促進する“3つのキーワード”

(2) シンガポールの都市計画と現在の姿

- ・シンガポールの都市の成り立ちと、開発計画が一目でわかるビジターセンター
- ・「MICE と統合リゾート」、「緑化政策 (City in a Garden)」、「日本食材の発信拠点」、3つのテーマの要所を視察

(3) シンガポール人経済専門家のレクチャー、シンガポール企業の海外展開支援施策

- ・シンガポールの経済学者から見た、シンガポール経済成長の秘訣と、日本の地域経済活性化の方策とは？
- ・官民一体となった企業の国際展開戦略のプレーン ～IE シンガポール～

(4) シンガポールの観光政策・日系旅行社訪問

- ・年間 1,300 万人を誘致する観光政策のアプローチ、アジアの近隣国の成長を見据えた事業展開とは？
- ・シンガポールにおける“北海道観光ブームの火付け役”が熱く語るメッセージ

(5) 海外販路開拓

- ・自治体事務所設立から 15 年、シンガポールのスーパーに人気商品として並ぶ高知の逸品と活路を見出した戦略とは。
- ・シンガポールで 110 年の歴史を持つ、ローカルスーパーの企業戦略をレポート。日本食品の位置づけを理解し、販路拡大のアプローチを考える。

(6) 都市インフラ開発

- ・最先端の都市インフラを世界へ展開。空港、港、水政策のノウハウをビジネスにつなげる最先端の現場を視察。
- ・世界 17 か国でオペレーションを展開する PSA の港湾運営、水の再生 (Newater) 工場の 2060 年をターゲットとした目標、世界のハブを目指すチャンギ国際空港の今後の展望を報告。

【インドネシア編】

(1) インドネシア概況と地方行政

- ・インドネシアの悪名高い“渋滞”が象徴するといわれる経済の現状とは。“遅々として進む国”インドネシアの今とこれからの行方を展望するエピソード。
- ・インドネシア内務省の局長が語る地方分権の現状と課題、日本の自治体との連携・協力の要望。首都ジャカルタが取り組む渋滞緩和対策とは？

(2) 日本語学習者との交流事業・市内視察

- ・将来の交流を担うインドネシアの若者が語る日本と、世界 3 位の日本語学習者を抱えるインドネシアとの人的交流の可能性。
- ・日本食材の進出先候補のひとつ？インドネシア最先端の富裕層向け小売店を訪問。その際、ミッション団一行が遭遇したアクシデントとその社会背景とは？

(3) 経済情勢と投資環境

- ・2020 年には中間層が 7 割へ、2 億人市場の魅力と課題。
- ・インドネシア政府の優先投資促進 3 分野とは？投資インセンティブの整備による、明るい兆しと、インドネシア市場争奪戦。

(4) 工業団地視察・日系企業訪問

- ・製造業の進出拠点として人気のジャカルタ近郊の工業団地を訪問。企業進出加速により、ここ 2 年で約 3 倍に上昇したあるものとは。
- ・二輪、四輪部品関連、オーディオ家電関連の日系企業 2 社を訪問。進出時の留意点、労働問題や賃金上昇などの背景について、豊富な経験に基づいた実情を報告。

地域間交流促進プログラム (シンガポール・インドネシア) 報告書

(2012年11月14日~11月24日)



財団法人 自治体国際化協会
全国市町村国際文化研修所
地域国際化協会連絡協議会

はじめに

財団法人自治体国際化協会では、この度「地域間交流促進プログラム」として、ASEAN諸国の中でも特に注目度の高いシンガポール、インドネシア両国を地方自治体関係者とともに訪問しました。本プログラムは、両国の政府・地方自治体の関係機関や日系企業の訪問・視察並びに市民交流等を通じて、両国の政治、経済、文化等の現状と課題を多面的に理解し、今後の両国の各地域との交流を促すことを主な目的としています。

こうした目的に沿って、今回の訪問では、まず、両国の日本大使館やJETRO、JNTOより最近の経済や観光の動向に係る詳細な説明を受けた後、シンガポールでは、国際企業庁、都市再開発庁、政府観光局と意見交換をしたほか、現地大手スーパーの視察及び高知県シンガポール事務所と日系旅行代理店における商品開発・販路開拓の実例を聴取しました。次いで、インドネシアでは、内務省や投資調整庁でインフラ整備や企業進出等の課題について、また、ジャカルタ特別市で交通管理等について詳細な説明を受け、さらに大規模工業団地の進出日系企業を視察しました。加えて、大学の日本研究者や日本語専攻の教授・学生とも交流しました。いずれの訪問先においても、活発な意見交換があり、両国に対する参加者の理解が日を追って深まっていくのが手に取るよう分かりました。

歴史的経緯から、常に国際社会で生き抜くための競争に直面してきたシンガポールでは、「建国の父」リー・クアンユーが訴え続けた「脆弱性の認識」というスピリットをしっかりと受け継いだ清廉且つ優秀な官僚が、世界のハブとしての地位を確固たるものとすべく、日夜、国際競争の最前線でしのぎを削る姿を目の当たりにしました。他方、東西5,000 kmにも及ぶ島嶼国家で、人口2.4億人を抱えるインドネシアでは、より逞しい国家を目指すリーダー達の気概に触れる一方、最近の目覚ましい経済成長を支えてきた労働者の「最低賃金引き上げ」のデモに遭遇したり、インフラが未整備のために日常茶飯事となった大渋滞に巻き込まれたりし、エネルギーシユでありながらも混沌とした同国の実情を垣間見ました。

翻って日本はどうか・・・リーマンショック以降の長引く景気低迷の中で、最早、「アジアのトップ」には程遠く、社会に閉塞感が充満しています。シンガポールで出会ったアジア経済研究所上級顧問のハック・リム氏は、「今なお日本は、技術力・発想力を備えた人材、安定した社会システム、多彩な文化や地域の魅力など、想像以上にアジアは日本に注目している」のであり、日本人の中に漂う先の見えない閉塞感の要因は、「グローバル人材を活用しきれていない日本の閉鎖性にある」と喝破されました。「日本は未だ国際社会で最も重要な存在であり、もっと世界に扉を開くべき」との氏の言葉はまさに至言で、我々を大いに刺激しました。

事程左様に、時間的・空間的な距離が縮まり、日本にいながら国際社会の旬な情報が簡単に手の届く時代になったものの、実際に現場に赴き、その地の人々の生の声を聞き、社会の躍動を肌で感じる事が如何に大切かを実感できた研修だったと思います。

研修に参加された皆さんが、得られた成果を向後の仕事に活用されることを念じるとともに、事務局としてご苦労戴いたシンガポール事務所の皆さんに、衷心より御礼申し上げます。

2013年1月

財団法人自治体国際化協会
理事 三枝 健二

1 プログラム概要

(1) 目的

日本の地方自治体職員等を対象として、様々な行政分野における先進的な施策で日本の自治体の注目を集めるシンガポールと、近年、経済発展・日系企業の進出等両国間交流の発展著しいインドネシアにミッション団を派遣し、日系政府機関、現地政府機関、地方自治体、現地進出日系企業等の訪問や日本語学習する学生との文化交流事業等を行うことにより、両国関係の現状と課題の理解を深めるとともに、地域の国際化を担う人材の育成並びに今後の地域間交流促進の契機とすることを目的とする。

(2) 実施主体

財団法人自治体国際化協会（CLAIR）

全国市町村国際文化研修所（JIAM）

地域国際化協会連絡協議会

(3) 実施概要

期間：平成24年11月14日（水）から11月24日（土）までの11日間

〔国内研修〕：11月14日（水）～11月16日（金）

〔海外研修〕：11月17日（土）～11月24日（土）

開催国：シンガポール、インドネシア（ジャカルタ）

参加対象：

- 地方自治体（都道府県、政令指定都市及び市区町村）の職員
- 地域国際化協会の職員
- 地方自治体の推薦を受けたNPOなど民間団体・国際機関の職員等
- アジア地域に駐在する地方自治体職員

(4) プログラムのポイント

- 政府その他の関係機関との意見交換等を通じ、今後の両国の地域間交流に資する視座と人的ネットワークの構築を図る。
- 現地進出日系企業の訪問等を通じ、経済・産業事情や両国間の経済交流の現状と、今後の可能性について考える。
- 訪日旅行や日本の地域産品の消費動向などにつき、現状を把握することで、地域間の経済交流の可能性を探る。
- 現地で日本語を学習する学生等との交流を通じて、将来の人的交流・文化交流の可能性を考える。
- 現地政府機関の訪問等、行政施設の視察などを通じて、地域間交流・国際協力などについて考える。

2 行程

(1) 国内研修 (全国市町村国際文化研修所 (JIAM) [滋賀県大津市])

日数	月 日	内 容
1	11月14日(水)	・開講式、オリエンテーション
2	～ 11月16日(金)	・自治体による国際活動の事例紹介 ・演習 (インドネシアでの交流事業の事前準備)
3	(JIAM 泊)	・シンガポール・インドネシア事情 (社会、政治、文化、地理、近現代史) ・シンガポール・インドネシア経済事情と日本との経済交流 ・海外オリエンテーション、ふりかえり

(2) 海外研修 (シンガポール、インドネシア・ジャカルタ)

日数	月 日	内 容										
4	11月17日(土) (シンガポール泊)	【シンガポールへ移動】 (関西国際空港→チャンギ国際空港) ・結団式										
5	11月18日(日) (シンガポール泊)	【シンガポール】 ・オリエンテーション ・講演「シンガポールの経済事情」(アジア経済研究所 ハンク・リム氏) ・市内視察 (MIEDIYA、マリーナベイサンズ、ガーデンズバイザベイ)										
6	11月19日(月) (シンガポール泊)	【シンガポール】 ・JETRO ブリーフィング、JNTO ブリーフィング ・在シンガポール日本国大使館 ・シンガポール国際企業庁 (IE シンガポール) ・シンガポール・シティギャラリー (都市再開発庁) ・意見交換会 (シンガポール国立大学日本研究学科・JETAA)										
7	11月20日(火) (ジャカルタ泊)	【シンガポール】テーマ別研修 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>観光戦略と海外販路開拓コース</th> <th>都市インフラと国家戦略コース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・シンガポール政府観光局 (STB)</td> <td>・PSA コーポレーション (港湾)</td> </tr> <tr> <td>・Cold Storage (現地スーパー)</td> <td>・Newater ビジターセンター (水)</td> </tr> <tr> <td>・Prime Travel & Tour 社</td> <td>・チャンギ国際空港 (空港)</td> </tr> <tr> <td>・高知県シンガポール事務所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ジャカルタへ移動	観光戦略と海外販路開拓コース	都市インフラと国家戦略コース	・シンガポール政府観光局 (STB)	・PSA コーポレーション (港湾)	・Cold Storage (現地スーパー)	・Newater ビジターセンター (水)	・Prime Travel & Tour 社	・チャンギ国際空港 (空港)	・高知県シンガポール事務所	
観光戦略と海外販路開拓コース	都市インフラと国家戦略コース											
・シンガポール政府観光局 (STB)	・PSA コーポレーション (港湾)											
・Cold Storage (現地スーパー)	・Newater ビジターセンター (水)											
・Prime Travel & Tour 社	・チャンギ国際空港 (空港)											
・高知県シンガポール事務所												
8	11月21日(水) (ジャカルタ泊)	【ジャカルタ】 ・在インドネシア日本国大使館 ・インドネシア内務省 ・グランドインドネシアモール視察										
9	11月22日(木) (ジャカルタ泊)	【ジャカルタ】 ・ジャカルタ特別市訪問・交通管理センター視察 ・日本語学習者との交流事業 (国際交流基金) ・意見交換会 (現地日系機関・メディア関係者)										
10	11月23日(金) (ジャカルタ泊)	【ジャカルタ】 ・JABABEKA 工業団地訪問 (PT. YASUFUKU 社、PT. KMK PLASTICS 社 訪問) ・インドネシア投資調整庁 (BKPM) ・JETRO ジャカルタセンター ・解団式										
11	11月24日(土)	(ジャカルタ→(シンガポール)→羽田空港) 到着 (羽田空港にて解散)										

3 参加者一覧

(敬称略)

	団体名	所属	役職	氏名
1	自治体国際化協会(CLAIR)	東京本部	理事	【団長】 三枝 健二
2	秋田県	産業労働部商業貿易課	主査	糸屋 智喜
3	佐賀県	統括本部情報課	主事	江口 健二郎
4	浜松市(静岡県)	企画調整部行政経営課	主任	中村 浩康
5	堺市(大阪府)	観光部観光企画課	係長	藤原 真由美
6	北九州市(福岡県)	環境局環境科学研究所	係員	廣瀬 純子
7	北九州市(福岡県)	地域支援部高齢者支援課	主任	宮崎 朋彦
8	北九州市(福岡県)	国際部国際政策課	係員	加藤 雄司
9	山形市(山形県)	まちづくり推進部 河川道路整備課	主幹兼係長	丹野 善彦
10	丸亀市(香川県)	産業文化部産業振興課	主査	和泉 元治
11	愛知県国際交流協会	交流共生課	主査	石川 淳二
12	全国市町村国際文化研修所	教務部・調査研究部 (和歌山市派遣)	主査	稲垣 隆紀
13	自治体国際化協会(CLAIR)	交流支援部経済交流課 (群馬県派遣)	主事	川島 裕志
14	CLAIR シンガポール事務所	(総務省派遣)	所長	足達 雅英
15	CLAIR シンガポール事務所	(兵庫県派遣)	調査役	菱田 裕史
16	CLAIR シンガポール事務所	(東京都派遣)	所長補佐	小宮山 徹
17	CLAIR シンガポール事務所	(浜松市派遣)	所長補佐	伊藤 裕子
18	CLAIR シンガポール事務所	(北九州市派遣)	所長補佐	則松 修
19	CLAIR シンガポール事務所	(鹿児島県派遣)	所長補佐	吉本 けい
20	CLAIR シンガポール事務所	—	調査員	チュア・フィーテン
21	CLAIR シンガポール事務所	—	調査員	シャウ・ミンヤン
22	CLAIR シンガポール事務所	—	調査員	グエ・ユーエン